

第19期 総会

1. 日時 2024年5月21日(火) 午後4時30分から午後5時

2. 場所 東京大学医科学研究所 講堂

3. 議事次第

(1) 開会 ご挨拶 理事長 清水 昭 氏

定足数確認

(2) 議事

第1号議案 2023年度活動報告

第2号議案 2023年度決算報告

第3号議案 役員の変更

第4号議案 2024年度活動方針案

第5号議案 2024年度予算案

資料 会員状況

(3) 閉会

議事録署名人 選任

以 上

第 1 号議案

2023年度活動報告

I. 概 要

2023年度には、清水新理事長の下、当機構の理念である「人と情報のネットワークづくり」を進める活動を一段と積極的に行いました。

まず、当機構の活動方法としては、新型コロナウイルス感染症（COVID - 19）が2類から5類に移行するに伴い、3年間続けてきた「オンライン中心」のスタイルから、徐々に人と人が直接触れ合える「リアルな活動」へと重心を戻していきました。一方、リモートで情報提供できることは、メリットも少なくないことから、リアル開催とリモート配信とを同時に行い、「ハイブリッド」なかたちで情報提供ができるようにも努めました。

また、具体的な情報提供面においては、「健康医療ネットワークセミナー」を例年以上に積極的に開催しましたが、この多くは『医療×DX』に関連したものとなりました。

こうした『医療×DX』を巡る動向の紹介は大変時節を得たものであったことから、第17回シンポジウムは『デジタルメディシン - その現状と未来 - 』というテーマの下、上記セミナーを集大成させたかたちで実施し、より多くの人々に情報を提供しました。

そして、組織運営面では、運営委員会（ステアリング・コミッティ）を、引き続きオンライン主体で定例的な打ち合わせを月1回程度実施し、セミナーやシンポジウムの企画、準備、資料作成、イベントの告知などについて、積極的に意見交換を行いました。

このように、理事をはじめ、会員や関係者の多大なご協力を得て、活動領域を一段と広げることができました。

2024年2月16日には、元理事長の武藤徹一郎先生が逝去されました。昨年度、前理事長・珠玖洋先生が亡くなりましたが、それに続いての訃報となり、とても残念です。心からご冥福をお祈りいたします。

II. 具体的活動

1. セミナー等を通じた情報提供とネットワークづくりの支援

(1) 健康医療ネットワークセミナー

今年度は、『医療×DX』に関連したものを中心に、終末期の心のケアや、ポスト・コロナの医療のあり方など、幅広いテーマでセミナーを開催しました。都合7回となり、例年以上に数多く開催しましたが、いずれも円滑に遂行できました。

このうち3回は、昨年度（2022年度）に始めた『医療におけるデジタル・テクノロジー分野の新たな動向』（5回シリーズ）の後半にあたるもので、当機構の理事の専門領域の知見、ネットワークなどを生かしたセミナー（『理事主導セミナー』）として、谷憲三朗副理事長の主導で、医療分野におけるデジタル・テクノロジーで注目されている研究者・経営者を招聘しました。

セミナーの開催方法については、年度前半は、前年度同様「オンライン形式」（ZOOM Webinar）とした一方、後半（70回・71回）には、リアルな会場での聴講を再開しながら、オンライン配信とのハイブリッド形式で実施する方法に変更することができました。セミナーの終了後には、講師を囲んだ懇親会も実施するなど、徐々に本来のネットワークづくりの趣旨に沿った運営方法に戻すことができています。

回	開催日	題名	講師	視聴人数
65	2023/7/8 土曜日	「医療・ヘルスケアを変革するデジタル・テクノロジー」（全5回シリーズ第3回） 「デジタルテクノロジーを駆使した新しい精神科医療の展開を目指して」 「利用者視点でのデジタルソリューションの開発」	慶應義塾大学医学部 ヒルズ未来 予防医療・ウェルネス共同研究講座特任教授 岸本 泰士郎氏 国立長寿医療研究センター研究所 老年学・社会科学センター 予防老年学研究部部長 島田 裕之氏	31
66	2023/7/29 土曜日	「喪失に寄り添う：終末期における心のケア」	グリーフ&ブリーフメント研究所 代表, 米国臨床心理学博士 森田 亜紀氏	30
67	2023/8/31 木曜日	「再生医療分野への参入企業における最近の課題」	インターステム株式会社 取締役 高尾 幸成氏	30
68	2023/9/19 火曜日	With Corona & Beyond、未来の世界 未来の医療を考えよう造ろう With Corona and Beyond: Let's predict and create Future world & healthcare	ハワイ大学医学部外科・国際医療 医学オフィス 町 淳二氏	22

69	2023/10/3 火曜日	「医療・ヘルスケアを変革するデジタル・テクノロジー」(全5回シリーズ第4回) 「国立成育医療研究センターにおけるAI ホスピタル事業の実装」 「食のヒト介入試験システム「江別モデル」を活用 した健康寿命の延伸」	国立研究開発法人 国立成育医療 研究センター 病院長 笠原 群生氏 北海道情報大学 学長 西平 順氏	32
70	2023/12/5 火曜日	「画像生成AIを用いて健康 (well-being) の意味を探 求する」	NPO法人ウェルビーイング附属 研究所, 福岡大学名誉教授 守山 正樹氏	24
71	2024/1/20 土曜日	「医療・ヘルスケアを変革するデジタル・テクノロジー」(全5回シリーズ最終回) 「神戸の医療機器開発支援の取り組みとデジタルヘル ス」 「内閣府の国家プロジェクト「AI(人工知能)ホスピ タルによる高度診断・治療システム」」	公益財団法人 神戸医療産業都市 推進機構 安田 匡範氏 サナメディ株式会社 代表取締役 内田 毅彦氏	52

非会員のセミナー視聴については、イベント管理システムであるPeatixを通じて視聴参加者を受付けることにより、従来通り、有料(1,000円/回)としました。もっとも、71回については、久しぶりに大きな会場を使ったリアルでのセミナー開催としたことから、なるべく多くの方に参加いただけるように、来場者については非会員も無料としました。

(2) 第17回シンポジウム 『デジタルメディシン - その現状と未来 - 』

日時：2024年3月2日(土) 午後1時から午後5時

場所：東京大学医科学研究所 講堂 (ZOOMでも同時配信〈ハイブリッド形式〉)

健康医療ネットワークセミナーでいくつか取り上げた『医療×DX』は、大変時節を得たテーマであったことから、第17回シンポジウムは、『デジタルメディシン - その現状と未来 - 』というテーマの下、上記セミナーを集大成させたかたちで実施しました。来場者・オンライン視聴者合わせて100名以上の方に参加いただけるなど、多くの人々に情報を提供することができました。

シンポジウム全体は、「I. デジタルメディシンの臨床開発と将来展望」「II. AIの医療への導入の将来性と課題」「III. 総合討論」の3部構成とし、講演では、健康医療ネットワークセミナーで以前登壇いただいた演者には、その後の研究や事業展開等を含めてご紹介いただいたほか、新たな演者にも最新の研究内容等についてお話いただきました。総合討論では、会場参加者やオンライン視聴者から質問やコメントをいただきながら、多面的に議論を深めることができました。

シンポジウム終了後には、近代医科学記念館内のカフェで懇親会を開催し、演者を含む参加者、関係者が大いに交流を深めることができました。

なお、シンポジウム概要(及び一部の講演の映像へのリンク)は、HPに掲載しています

(<https://www.npotrnetworks.com/reportsympo17>)。

今回のシンポジウムは、リアルの会場で講演等を実施しながら、その模様をオンライン（ZOOM Webinar）でも同時配信する「ハイブリッド形式」で行いました。同時配信については、事前に準備を重ねてきたものの、一部音声・映像でトラブルが発生し、オンラインで視聴された方々にはご迷惑をおかけしました。次回以降は円滑に進められるよう、一層入念に準備を重ねて行きます。

講演名		講師
	開会の辞	当機構・理事長 清水 昭 氏
	イントロダクション	当機構・副理事長 谷 憲三朗 氏
【第1部 デジタルメディシンの臨床開発と将来展望】		
講演 1	聴診DX／超聴診器プロジェクト	AMI株式会社代表取締役CEO 小川 晋平 氏 同 海外戦略担当 佐藤 銀河 氏
講演 2	デジタル情報を活用した精密健康栄養学への挑戦	北海道情報大学 学長 西平 順 氏
講演 3	健康寿命延伸へ向けたデジタルヘルス	国立長寿医療研究センター研究所 老年学・ 社会科学センター予防老年学研究部 部長 島田 裕之 氏
【第2部 AIの医療への導入の将来性と課題】		
講演 1	人工知能が拓く創薬と医療	名古屋大学大学院情報学研究科 複雑系科学 専攻 生命情報論講座 教授 山西 芳裕 氏
講演 2	国立成育医療研究センターにおける AIホスピタル事業の実装	国立研究開発法人 国立成育医療研究 センター 病院長 笠原 群生 氏
【第3部 総合討論】		
司会： 上田 龍三（当機構 理事） 谷 憲三朗（当機構 副理事長）		

シンポジウムは、これまで通り会員・非会員を問わず無料としましたが、参加受付にあたってはイベント管理システムPeatixを活用しました。

広報については、例年通り、当機構のメーリング・リストを活用するとともに、関連交流団体のネットワークからも告知しました。

シンポジウムの開催にあたっては、株式会社メディカ・ラインから協賛をいただきました。今年度も、チラシには、株式会社メディカ・ラインの広告を掲載しました。また、シンポジウム開始前や休憩中には、社名やロゴが会場スクリーンや画面で来場者・視聴者の目に触れるかたちとしました。

（3）他組織との連携

今年度も、『未病社会の診断技術研究会』を支援するとともに、研究会を共催しました（下表）。

東京大学医科学研究所・講堂にて開催

回	開催月日	演 題	講 師	視聴者数
45	2023/7/5 水曜日	老いは病か — 寿命とは何か	京都大学総長 湊 長博 氏	60名
46	2023/12/27 水曜日	いよいよ実用開始が迫ったアルツハイマー病抗体薬をめぐる	東京大学大学院 医学系研究科 神経病理学分野 教授／国立精神・神経医療研究センター 神経研究所 所長 岩坪 威 氏	39名

2. 組織運営面での活動

(1) 第18期理事会（2023年5月16日開催）、第18期総会（2023年5月30日開催）

第18期理事会・総会は、引続き前回同様、書面表決としました。その際には電子メールによる電磁的方法で行いました。

理事会・総会において、それぞれ、2022年度の活動報告・決算報告、および2023年度の活動方針・予算案が提出され、承認されました。

総会終了後には、当機構理事・元AMED（国立研究開発法人 日本医療研究開発機構）再生・細胞医療・遺伝子治療事業部・渡辺泰司氏による記念講演『橋渡し研究（TR）が目指してきたもの（私見）』が行われました。

(2) 運営委員会（ステアリング・コミッティ）（毎月、ZOOMによるリモート会議）

当機構の運営全般を検討する「運営委員会（ステアリング・コミッティ）」では、構成員（下表）のほか数名の会員の方々がオブザーバーとして加わりながら、自由な意見交換を行いました。

氏 名	所 属
清水 昭 理事長	医療法人瑞穂会理事・川越リハビリテーション病院（統括院長）
谷 憲三朗 副理事長 (TR研究局長)	東京大学 (定量生命科学研究所 特任教授)
渡辺 賢治 副理事長	医療法人 修琴堂 大塚医院 (院長)
渡辺 泰司 副理事長	
阿川 清二 理事 (事務局長)	若松河田 行政書士事務所 (代表)
中井 徳太郎 理事	日本製鉄株式会社 (顧問)
長野 隆 理事	株式会社 OP3 (代表取締役)
岩田 良輔 理事	株式会社 ブランシュ コンセイエ・デサンス (代表取締役)
竹本 治 理事	ソーシャル・コモンズ (代表)
山本 裕 監事	サステナビリティプラザ株式会社 (代表理事)

当委員会では、参加者がそれぞれアイデアを出し、実務を着実に進めることで、当機構が新たな業務運営方法を確立し、活動領域を広げるべく努めました。理事の企画・運営のセミナーやシンポジウムの企画に際しても、充実した内容になるよう、積極的に意見が交わされました。

3. 広報活動等

(1) 広報活動

シンポジウム、各種セミナー、ミーティングを通じて、当機構に興味を示してくださった方はメーリング・リストに取込み、その拡充を常にはかりました。

また、開催したセミナーやシンポジウムなどについては、講演の概要や関連資料（一部の映像へのリンクを含む）を、ホームページ（HP）で公開しました。

HPでは、各種セミナーやシンポジウムへの参加申込などが簡便にできるようにしています。また、オンラインによるセミナーやシンポジウム終了後は、次回セミナーの案内等の画面を用意するとともに、QRコードによってスマートフォンからも簡単にHPにアクセスできるように配慮しています。

このほか、関係団体を通じて、一般の方々にもセミナーなどの案内を配信してもらうよう、都度依頼しました。

(2) 会員募集活動

ハイブリッドで開催した健康医療ネットワークセミナーやシンポジウムの会場では、来場者の中で関心のある方には連絡先（メールアドレス）をアンケートに記載いただく等により募集を行うことが出来ました。

また、オンライン配信では、最後に会員募集のメッセージを発信したり、また終了直後に会員募集等の画面を用意したりすることを通じて、積極的に募集活動を行いました。

このほか、シンポジウムの演者で非会員の方には、当機構の推挙の下で、個人正会員として当機構にご参加いただくことを提案し、了承いただきました（2年度分は会費免除）。

	個人正会員	個人賛助会員	団体法人賛助会員
2014 年度末	87	—	10
2015 年度末	87	—	9
2016 年度末	81	—	8
2017 年度末	79	—	7
2018 年度末	77	15	7
2019 年度末	56	21	7
2020 年度末	60	21	7
2021 年度末	53	21	6

2022 年度末	56	12	4
2023 年度末	57	9	5

以 上

2023年度決算報告

1. 決算概況

収入面において、会費収入は、昨年度を下回る約88万円となりました。この会費収入額は当初予算（200万円）には大幅に下回るものであり、厳しい結果であったと考えております。個人正会員の未収金やコロナ禍による経済の混乱などを踏まえ、賛助会員企業からの収入が引続き減少するなどの影響がありました。

事業収入等・約23.5万円、及び、当機構が過去積み上げてきた内部留保（純資産）約257万円等と合わせることで、年度内の活動を円滑に行うための必要額を何とか賄うことができました。

支出（297万円）においては、経費抑制には努めたものの対面イベントとのハイブリッド形式でシンポジウムを開催し、懇親会を再開したこと等により予算からは下回りましたが昨年度（349万円）からは大きな削減は図れませんでした。

今年度の収支のバランスについては、最終的には約185万円の赤字となりました。

当機構の純資産は、コロナ禍の期間に大幅に減少し約72万円となっております。当機構の財政状況は極めて逼迫してきていると考えられます。

2. 決算状況

2023年度の具体的な決算表を次ページ以降に示します。

表：貸借対照表（期末時点の財産目録を兼ねる）

書式第11号（法第28条関係）

2023年度		会計貸借対照表	
2024年 3月 31日現在			
特定非営利活動法人健康医療開発機構			
（単位：円）			
科目	金額		
I 資産の部			
1 流動資産			
現金預金	743,773		
未収入金	6,822		
流動資産合計		750,595	
2 固定資産			
固定資産合計		0	
資産合計			750,595
II 負債の部			
1 流動負債			
前受金	30,000		
預り金	490		
未払金	0		
流動負債合計		30,490	
2 固定負債			
長期借入金	0		

固定負債合計	0	
負債合計		30,490
Ⅲ 正味財産の部		
前期繰越正味財産	2,573,416	
当期正味財産増減額	▲ 1,853,311	
正味財産合計		720,105
負債及び正味財産合計		750,595

表：収支計算書

書式第12号（法第28条関係）

2023年度		特定非営利活動に係る事業		会計収支計算書	
2023年 4月 1日から 2024年 3月 31日まで					
特定非営利活動法人健康医療開発機構					
(単位：円)					
科目	金額				
(経常収支の部)					
I 経常収入の部					
1 会費・入会金収入					
入会金収入					
会費収入	880,000				
2 事業収入					
(1) 情報収集・提供事業収入	93,362				
(2) 政策提言事業収入	55,000				
(3) 研究・開発及び事業化の支援事業収入	0				
(4) 研究調査事業収入	0				
3 補助金等収入					
地方公共団体補助金収入	0				
民間助成金収入	0				
4 寄付金収入	0				
5 その他収入					
利息収入	21				
雑収入	87,500				
任意団体からの繰入金	0				
6 その他の事業会計からの繰入					
経常収入合計					1,115,883
II 経常支出の部					
1 事業費					
(1) 情報収集・提供事業費	943,737				
(2) 政策提言事業費	812,476				

(3) 研究・開発及び事業化の支援事業費	0	
(4) 研究調査事業費	0	
2 管理費		
人件費	58,000	
会議費	0	
租税公課	0	
地代家賃	0	
事務機材費	3,025	
通信光熱費	0	
消耗品費	96,800	
通信運搬費	654,226	
印刷製本費	0	
広報関連費	21,780	
旅費交通費	0	
減価償却費	0	
雑費	269,150	
支払報酬	110,000	
支払利息	0	
経常支出合計		2,969,194
経常収支差額		▲ 1,853,311
III その他資金収入の部		
その他の資金収入合計		0
IV その他資金支出の部		
その他の資金支出合計		0
当期収支差額		▲ 1,853,311
前期繰越収支差額		2,573,416
次期繰越収支差額		720,105
(正味財産増減の部)		
V 正味財産増加の部		
1 資産増加額		
当期収支差額(再掲)	0	
2 負債減少額	812,926	
増加額合計		812,926

VI 正味財産減少の部			
1 資産減少額			
当期収支差額(再掲) (マイナスの場合)	2,666,237		
2 負債増加額	0		
減少額合計		2,666,237	
当期正味財産増加額 (又は減少額)		▲ 1,853,311	
前期繰越正味財産額	2,573,416		0
当期正味財産合計			720,105

以上

第3号議案

役員の変更

今年度は、理事・監事の変更はありません。

2024年度活動方針案

I. 概 要

新型コロナウイルス感染症も落ち着きを見せ、当機構の本分である人と人とのつながり(「ネットワーク・オブ・ネットワークス」)を行える環境が戻ってきました。

そこで、本年度は参加者が直接触れ合えるリアルな交流の場を提供しつつ、オンラインによる配信も併用した「ハイブリッド方式での活動」を本格的に推進し、「人と情報のネットワークづくり」をさらに充実させていきます。

具体的には、『健康医療ネットワークセミナー』およびシンポジウムの開催を軸に、TR (Translational Research) を中心とする医療・創薬・健康などの分野に関する情報の収集、提供、政策提言、研究活動の場を提供する事業を実施します。

また、他の関連団体との連携・協力などもさらに進めていきます。とくに、2024年度には、「地球規模での健康で幸福な生活への寄与」を目指すことも視野に入れながら、当機構と長らく協力関係にある『ものづくり生命文明機構』が追求している“地球環境の改善を通じ、人間をふくむ生命の持続可能性”について、2023年度同様、歩調を合わせ、活動を継続していきます。

組織運営・広報活動については、恒常的に広報活動を地道に行って、当機構の活動を共に行っていく仲間の数を増やしていくことに加え、当機構のモットーである会員相互の交流を深める機会も増やしてまいります。とくに、ここ数年は、会員数が一段と減少し、協賛金も減少するなど、財政が逼迫している中、健全化に向けた工夫が一段と必要となっており、(1) 当機構をサポートしてくれるメリットを現会員や協賛企業がより実感してもらえるようにしていくとともに、(2) 費用節減の面でも一段の工夫をしていきます。

当機構ならではの「ネットワーク・オブ・ネットワークス」を駆使して、さまざまな議論を活性化し、世代を超えた意識共有やバトンタッチに向け、会員相互のコミュニケーションをいっそう発展させてまいります。

II. 具体的活動

1. セミナー等を通じた情報提供とネットワークづくり

(1) 健康医療ネットワークセミナー

概要で述べたように、ハイブリッド方式での開催を積極的に展開していきます。

①基本運営方針

健康医療ネットワークセミナーについては、様々なカテゴリーの人々との幅広いネットワークづくりを目的に運営します。テーマとしては、会員の要望（アンケート結果など）を踏まえて、医学研究そのものに限らず、幅広く取り扱いながら、できる限り「誰にでもわかりやすい」セミナーにすることを重視していきます。

開催頻度としては、およそ 1~2カ月に1回のペース（参加人数は30~50人程度を想定）を予定しており、テーマや講演者によっては、他団体との共催の形で実施することも想定しています。

②理事主導によるセミナー

今年度も引き続き、当機構理事の方々にそれぞれの専門領域の知見、人的ネットワークなどを生かしたセミナーを企画していただく予定です。具体的な実施方法については、企画・運営を担っていただく理事とも相談しながら、概ね下記のような要領で進めます。

《セミナー実施要領》

テーマ：健康・医療に関連した分野（TR連携に資するものに限らない）

テーマの選定：当機構理事（以下、企画担当理事）からの発案を基本とするが、ステアリング・コミッティからも一部発案することも視野に入れる

開催回数・時間：30~40分/回×3回程度（企画担当理事自身を含む数名が交代で講師をつとめることを想定）、年間で2テーマ程度（計6回程度）扱う

司会進行：企画担当理事

形式：ハイブリッド方式

その他：事務局は、参加者の募集、システム対応など全面的にサポートする

ハイブリッド形式については、これまでの経験を踏まえ、簡易操作手順書を作成し、円滑な実施を目指します。

《今後の予定》

開催日	セミナー名	講師
日程調整中	シリーズ『創薬の研究 ～がんのサバイバル戦略を標的とした多機能性放射線増感剤の開発について』（仮）	徳島大学生物資源産業学部 応用生命コース 教授 宇都 義浩 氏 ほか

日程調整中	『ハイパーソニック・エフェクト研究の現在』（仮） （ものづくり生命文明機構との共催）	調整中 （大橋 力 文明科学研究所 所長の推薦による）
-------	-----------------------------------------------	-----------------------------------

健康医療ネットワーク・セミナー（上記①、②）の事業に関わる収入としては、会費（会員外1名あたり1,000円）、また、支出としては、1回あたり講師に対する謝金30,000円、および別途規定による交通費の支払いを見込みます。なお、視聴者の参加受付については、これまでと同様、Peatixを通じて行う予定です。

（2）シンポジウム（第18回）

シンポジウムについても、昨年度につづき、ハイブリッド形式での開催を検討していく予定です。

2024年9月頃までには、日程とあわせ、テーマを決定した上で、速やかに講演者の選定を開始します。シンポジウムのテーマや対象分野に関し、理事・会員からの積極的なご提案や助言を期待しています。

当事業に関する費用は当機構の事業費および協賛企業による協賛金で賄います。支出は、講師に対する謝金及び別途規定による交通費などの支払いと、開催運営費用、並びに、開催後の報告書などの作成送付費用を見込みます。

（3）他組織との連携

協力関係にある『ものづくり生命文明機構』、『未病社会の診断技術研究会』、一般社団法人『Jr Sr(ジュニア シニア)』などとの連携をはかります（下表）。これら以外にも、当機構と目的を共有する様々な組織・団体との連携を推進し、オールジャパンの取組みを発展させていきます。

連携先	協力形態	具体例（予定）
ものづくり生命文明機構	相互協力 共同広報	活動への相互参加
未病社会の診断技術研究会	勉強会の共同開催、共同広報	未定 （勉強会開催費用の一部負担）
Jr Sr(ジュニア シニア)	相互協力 勉強会の共同開催	共同広報

この連携活動に関する収入は見込みません。

（4）会員相互の交流に向けた検討

ハイブリッド方式でのセミナーの機会を利用して、インターアクティブな会員相互の交流を深める場を提供していく予定です。各世代にまたがる多様性のある議論を推進しながら、研究動向、重点課題の共有、さらに、アイデアの芽をいかに実装していくかなど、活発な意見交換を旨とします。

2. 組織運営面での活動等

(1) 運営委員会（ステアリング・コミッティ） 随時開催

当機構の運営全般を検討する「運営委員会（ステアリング・コミッティ）」では、構成員（下表）が、1ヶ月に1回程度（オブザーバーとして会員も参加）、日常的な運営、シンポジウムの内容、セミナーの企画などを検討していきます。当面は、オンラインによる開催を基本とします。

【運営委員会構成員】

氏名	所属
清水 昭 理事長	医療法人瑞穂会理事・川越リハビリテーション病院（統括院長）
谷 憲三朗 副理事長 (TR研究局長)	東京大学（定量生命科学研究所 特任教授）
渡辺 賢治 副理事長	医療法人 修琴堂 大塚医院（院長）
渡辺 泰司 副理事長	
阿川 清二 理事 (事務局長)	若松河田 行政書士事務所（代表）
長野 隆 理事	株式会社 OP3（代表取締役）
岩田 良輔 理事	株式会社 ブランシュ コンセイエ・デサンス（代表取締役）
中井 徳太郎 理事	日本製鉄株式会社（顧問）
竹本 治 理事	ソーシャル・commons（代表）
佐藤 銀河 氏	AMI株式会社（海外戦略担当）
河野 芳弘氏	Enmei Pro株式会社（代表取締役）
山本 裕 監事	サステナビリティプラザ株式会社（代表理事）
渡辺 一夫 監事	日本メディカルファンド株式会社（代表取締役）

当活動に関する収入は見込みません。支出につきましては、旅費規程に基づく旅費支払いを見込みます。

(2) 事務局運営体制

その他事務局の運営は、事務局長を核としながら、昨年度と同様の体制で行うことを考えています。基本的には有志によるボランティアによって行うものとしますが、運営サポートスタッフは2名を予定しています。

3. 広報活動等

(1) 広報活動

パンフレットの内容を更新して作成するほか、セミナー、シンポジウムにおける講演の概要や関連資料などを、関係者の了解の下、ホームページ（HP）上に一段と積極的に公開していくことも検討していきます。

また、関連メディアにおける記事掲載や、他の組織との共同広報を進めるとともに、ハイブリッド形式などオンラインを利用したセミナーを開催した際には、休憩時や終了直後に画面で次回セミナーの告知を行うなど、積極的な広報に努めていきます（下表）。

項目	対応	関連支出
パンフレット	内容を更新	・デザイン代、印刷代
ホームページ	積極的な情報発信	・維持管理担当者のアルバイト代 ・サーバー・レンタル費用
メディアを通じた 広報	講演者へのインタビュー記事 掲載	(予算上は見込まず)
他組織との連携	共同広報	(予算上は見込まず)
オンラインセミナー の活用	・休憩時、終了直後画面での告知 ・QRコードの活用 (HP画面へのアクセス用)	

このほか、シンポジウム、各種セミナー、ミーティングを通じて、当機構に興味を示してくださった方はメーリング・リストに取り込み、その拡充をはかっていきます。

(2) 会員募集活動

当機構を一段と発展させ、活動内容を一層多様にしていくため、正会員・賛助会員数の増加に引き続き注力するとともに、既存・新規のコミュニティや活動に関わる人の輪を拡げること努めていきます。オンラインセミナーでは、休憩時や終了直後に画面で会員募集等を積極的に行っていきます。

また、セミナーやシンポジウムの講師をお引き受けいただいた場合には、2年度分、個人正会員となることのできる特典を付与し、ネットワークの拡大に寄与していきます。

一方、会費滞納を理由に会員資格を喪失された個人正会員・賛助会員の方々にも、改めて当機構の活動の趣旨を説明し、再び会員となつていただくよう働きかけていきます。

団体賛助会員を含めた会員数を増やすことについては、理事をはじめ、個々の会員、関係者の皆さまからのこれまで以上の積極的な支援を期待しています。

(3) その他資金支援の受付

会費以外の形態による資金支援の受付方法を対外的にわかりやすく案内することで、幅広く財政面での支援を獲得することを目指します。

4. 財政健全化に向けた工夫

第1号議案にある通り、当機構の正会員・賛助会員数の数は一段と減少しています。また、現会員からの年会費については、リアルで総会を開催しなくなったこともあって、会員が振込を失念するなど、未収のものが増えています。こうしたことから、第2号議案にある通り、会費収入が減少しているほか、パンデミック以降は、シンポジウムへの協賛金等も減少しています。この結果、当機構の財政運営は、ここ数年徐々に厳しい状況になってきています。

こうしたことから、(1) 上記「3. 広報活動 (2) 会員募集」に記載の通り、新規会員の募集に積極的につとめるとともに、(2) ①現会員からの年会費の徴収方法については、会員によっても利便性が高く合理的な方法を検討すること、②協賛企業に対しては、これまで以上に当機構の活動の意義を理解して

もらえるように、説明機会を増やすこと、③各種活動においては、会場費等の費用節減に一層つとめること等を通じて、財政の健全化に向けて工夫を一段とこらすこととします。

2024年度特定非営利活動にかかる事業収支予算書

2024年4月1日から2025年3月31日まで

特定非営利活動法人健康医療開発機構

(単位：円)

科目	金額		
(経常収支の部)			
I 経常収入の部			
1 会費・入会金収入		2,000,000	
入会金収入	0		
会費収入	2,000,000		
2 事業収入		300,000	
(1) 情報収集・提供事業収入	100,000		
(2) 政策提言事業収入	200,000		
(3) 研究・開発及び事業化の支援事業収入	0		
(4) 研究調査事業収入	0		
3 補助金等収入		100,000	
地方公共団体補助金収入	100,000		
民間助成金収入	0		
4 寄附金収入		100,000	
	100,000		
5 その他収入			
利息収入	0		
		0	
経常収入合計			2,500,000
II 経常支出の部			
1 事業費		1,600,000	
(1) 情報収集・提供事業費	800,000		
(2) 政策提言事業費	800,000		
(3) 研究・開発及び事業化の支援事業費	0		
(4) 研究調査事業費	0		
2 管理費		1,600,000	
役員報酬	0		
人件費	200,000		
会議費	50,000		
租税公課	10,000		
事務機材費	100,000		

		光熱水費	0	
		地代家賃	0	
		消耗品費	50,000	
		通信運搬費	500,000	
		印刷製本費	100,000	
		広報関連費	20,000	
		旅費交通費	30,000	
		減価償却費	0	
		雑費	40,000	
		支払報酬	500,000	
		支払利息	0	
			0	
		経常支出合計		3,200,000
		経常収支差額		-700,000
Q2	Ⅲ	その他資金収入の部		
	1	固定資産売却収入		
		その他の資金収入合計		
	Ⅳ	その他資金支出の部		
	1	固定資産取得支出		
	2	その他の資金支出合計		
		当期収支差額		-700,000
		前期繰越収支差額		720,105
		次期繰越収支差額		20,105

会員状況 (2024年3月末現在)

● 個人正会員 (敬称略)

阿川 清二	蔵元 康雄	西川 博嘉
秋山 修一	小長 洋子	浜野 雅彦
池田 康夫	齋藤 英彦	日吉 和彦
池田 裕明	嶋澤 るみ子	町 淳二
伊藤 昌夫	清水 昭	松井 昭夫
井上 和明	白井 重隆	松田 孝
井上 清成	杉村 正樹	三浦 博美
今井 浩三	砂崎 文佳	三木 格
岩下 照房	砂崎 純	宮野 悟
岩下 美幸	染谷 一敏	宮原 慶裕
岩田 良輔	染谷 光亨	森田 寛
上田 龍三	高鳥 登志郎	山本 裕
内海 正義	高橋 聡	吉澤 保幸
鶴殿 平一郎	竹本 治	吉永 智光
奥村 康	谷 憲三朗	渡辺 賢治
小澤 敬也	玉田 耕治	渡辺 一夫
小野寺 純子	中井 徳太郎	渡邊 泰司
鎌田 志賀子	中込 昌治	(計 57名)
河上 裕	長野 隆	
河野 芳弘	長野 優華	

● 個人賛助会員 (敬称略)

市村 功
小川 理子
久野 美和子
佐藤 恵里
塩入 重彰
出張 勝也
深澤 賢治
湯地晃一郎
吉羽 一
(計 9名)

● 団体賛助会員

東日本旅客鉄道株式会社

シミックホールディングス株式会社

株式会社ブランシュ・コンセイエ・デサンス

株式会社ユニセン

株式会社メディカ・ライン

医療法人社団 Green Leaf Health

(順不同 6 団体)